

「農業」と「生活」のシミュレーションによる担い手確保 ——石狩市による石狩アグリケーションの取組み——

主事研究員 佐藤彩生

農業の生産現場での労働力不足が深刻となるなか、半農半Xや短期間の農作業のマッチングなど、多様な農業への関わり方に注目が集まっている。本稿ではその事例のひとつとして、4年目を迎える石狩市の「石狩アグリケーション」（以下、石狩AC）の取組みを取り上げ、意義を考えていきたい（注1）。

1 石狩市の概況

石狩市は、札幌市の北側に隣接し南北に約70キロ伸びる縦長の市である。市内では米、小麦のほか、ブロッコリーやジャガイモ、ミニトマトなど多品目の野菜が生産されている。

石狩市内の農業従事者数は年々減少傾向にあり、2022年は702人と2017年から15%減少している。石狩市を管内に持つJAでは、農業アルバイトを仲介するグリーンサポーター事業をこれまでに行ってきた。しかし、農業アルバイトの高齢化と減少が慢性的で、特に夏と秋の農繁期における労働力不足が課題となっている。

2 石狩アグリケーションの概要

2020年度に総務省の「関係人口創出・拡大

事業」に石狩市が採択されたことを受け、同事業のひとつである石狩ACの参加者受入管理をJAは市から業務受託した。

石狩ACは農業（アグリ）と休暇（バケーション）とを組み合わせた造語であり、参加者は石狩市に滞在しながら、週4～5日は野菜の収穫作業などに従事し、作業時間以外は自由時間として地域での休暇を楽しむプログラムとなっている。

石狩ACの受入れにあたって、JAは参加者の事前面談や受入日程の調整、滞在施設の確保、作業現場への送迎など、マネジメント全般を担っている。

石狩ACの参加者は「ベーシックタイプ」、「スマートタイプ」、「アドバンスタイプ」の3タイプに分かれている（第1表）。ベーシックタイプは夏休み期間を利用した大学生の参加が多く、スマートタイプはテレワークが可能なIT企業の会社員の参加が主である。作業期間がほかのタイプより長いアドバンスタイプでは、石狩市での就農に興味を持つ人が参加している。

2022年度における石狩AC参加者の合計は21名（注2）で、受入農家は8軒であった。なお、2023年度の石狩ACも4月18日から募集を

第1表 2022年度の石狩アグリケーションの概要

	ベーシックタイプ	スマートタイプ	アドバンスタイプ
農作業時間	4～5日/週、8時～17時	4～5日/週、8時～12時	5日/週、8時～17時
参加期間	10日間以上(7/1～10/31)	10日間以上(7/1～10/31)	2ヶ月間以上(5/16～10/31)
募集年齢・人数	18～45歳以下、20名	18～50歳以下、5名	18～45歳以下、5名
参加者支援金	5,000円/日	2,500円/日	7,000円/日
開始年	2020年	2021年	2022年

資料 JAいしかりのウェブサイトを基に農中総研作成

（注） 宿泊滞在施設はオーナーによる食事提供施設2軒と自炊タイプのシェアハウス1軒。シェアハウスの場合、支援金と別に平日2,000円、休日1,500円の食費が参加者に支払われる。

開始している。

3 石狩アプリケーションの効果

石狩ACの取組みは、本来の目的である労働力不足の解消のみならず、多方面で効果が現れている。農作業現場では、石狩ACの若い参加者が作業に加わることで、現場を共にする従来のアルバイトの士気や作業効率が上がった。こうした石狩ACの効果を受けて、2022年度の受入農家8軒のうち5軒が2年連続で石狩ACの参加者を受け入れている。

一方、休みの日には参加者が受入農家や宿泊滞在施設のオーナーなどと交流し、石狩市の食や観光などを楽しんでいる。石狩AC終了後にも、また石狩市を訪れたいという声が参加者から多く聞かれている。また、2020年に首都圏で行われた石狩フェアでは、石狩ACの参加者が来場者に自身の体験についてプレゼンを行うなど、石狩市の関係人口づくりにもつながっている。

最も着目すべき効果は、2022年度から開始したアドバンスタイプの参加者が石狩市での就農を目指すに至ったことである。アドバンスタイプの参加者3名(うち2名が道外出身者)は農業の経験が全くなかったが、農業への興味からアドバンスタイプに参加し、職業として農業が楽しく続けられるという実感を得て、2名が石狩AC終了後2023年4月から石狩市の新規就農研修を受けている。

また、残り1名もJAいしかりのグリーンサポーターに登録し、現在も農作業に従事している。

4 石狩ACの意義

石狩ACの取組みの意義について、アドバンスタイプにおける担い手確保の面から2点挙げる。

1点目は、農業に興味を持つ人が比較的容易に「農業」のシミュレーションを行うことができることである。初めて就農を目指す場合、一般的には2年間の研修がファーストステップとなる。しかしながら、2年間という期間は農業の現場を知らない人にとってハードルが高い。

他方、石狩ACの場合は、最低2カ月間であるため、農業の経験がない人にとって農業の適性を見極めには適当な期間となっている。

2点目は、農家として「生活」するシミュレーションを体験できることである。参加者には移住者もいたが、地域に知り合いがいないことから地域の暮らしに関する情報を多く持っていない。石狩ACでは、幼稚園や病院など生活面に関する参加者の相談にもJAや市の職員が随時乗っていた。それだけでなく、JAや市が参加者と農家や新規就農者との交流会を実施し、参加者が地域になじめる機会を作っていた。

参加者が就農先として石狩市を選んだ理由に、安心感や地域から歓迎されている感覚を挙げており、先のJAや市のサポートが影響しているとみられる。

5 まとめ

石狩ACの取組みからは、農業に興味がある農業未経験者が「農業」と「生活」のシミュレーションを経ることで、現実的に就農のビジョンを持つことができるという示唆が得られた。裏を返せば、「農業」と「生活」の両面で安心感を得られないことには担い手確保につながりづらいため、そのためにもJAや市などによるサポート側の細かな対応が担い手確保において重要であると言える。

(さとう さき)

(注1) 本稿はJA都市農村交流全国協議会の2022年度の事例集作成にかかる調査に基づいて執筆を行った。

(注2) ベーシックタイプ17名、スマートタイプ1名、アドバンスタイプ3名。